門へ13
3938
3
八
十九
冊號函

安

小三金五郎 假名文章娘節用前編下卷

嗚呼此時小三心情紅戸如何仙人補綴阿
然情第三回ヲ起サルヲ得サルナリ

富士ぶらい 狗ふぐりつ。浦神ふぬぐひつ。金ゐ帝
の例へさうろう。今さう実をうつて。一且お疑ひと
交まりこまび。偽こゐ号ぐあるこふお別まり
てようり。一日片時ままませ。泣くあうー笑くうぐ
いうそかまの日をかるもやぐく家へ歳つのさらびおきと

おつまをつさ。そのおとをかあて。今日うぶ日うと指をて
まてば一日も十日のおりひ。明ても暮てもお夜ぐ。一ト月
こち二ヶ月色二月に月と日へ来てども。風のこうりのおあ
さへ。ないてくてくてこうちおこの春の弥生のころ日さへ
こまとなたいこーまをん。上の八日の歌もふけて。こうの家門へ
藤あづまつても。こうこうだうり目も食ぢ。ちうこと汐すあ
ぢうこうこと思ひまいせべいとで。あく。こうりの弥茶あうこと
まを橋らいとこの世ふうこうく。のつを死のつう眼やうこと者ど

まどーこうりまずわうこう園の戸をんくこうこと
あるこのおこあさをいこ橋ーく戸をあけてうんをびるんあも家
の雪ことすもあのまこうひうこまこ藤まをうこうこんく、
こようぶこあの二度のこびこうこあるあもあをてうこんをこの物
あの二日こうあ者で合点あのあもうん途方ふうるをびあく
あひびく夜中の陸の寺の東を先方こうこうこうこうこ
指せあう。扇うあ月日を送りまこのあもびーく苦まを
ありの門を死んこうまーであらあこうあうふぢうこと

首をもりもりと身の毛よだちぞくぞくと死神のつのぐんだ
のとまちまちのうたてもあてもなくつけまとつすまと
ぶうくとあをぬけ出そうつまりぶつのあいさつのあり
ちらしたりして身を投げやう。加茂河の人ぶくまとあさと近所
のものふり上ら見ふさ返ってこんまりとうが顔もこん
ちぬこいい男がせげんとやうの人男とふうり
だのうくなあこいあうこいとのくて他まで縁るうの人をの
うとのいまとのさまあそうしさいうくふうびあってのこの

用だうりのうてはしてゆ入まちの身い悪理非たとのくて身とけが
をうくあるうく舌を喰てなと果ま手をうと存ト手ぶ身
を投てさ入動るりのとまぶ命の手をぬとあうぶうぶうぞくて来へ
ぶうりあるうこのお顔とうう一度こんまりとう人を死このあと。
おりのさひの通ト はうう。その悪損ぶのとうびい遠の人
職へ貴ちうく金ぶまるうこあうやまます四名。とも運ちく
死おうと悪者の手ぶうくうくうさんのさうう人
すぐ
ま手のれ返ってとあります。ぶうで憂用

位なるべし。大磯の扇い朝臣ふ人の入りそめしことをと人びと
身と流めしるべ。まるさふめぐり逢のまつらとそうのことと
役りふ。此のうのおとうさんとおうん素ちいたいなけ
ほど。ひとつふ論うるべ。この頼信や人歌抜ふうこと
くまるりほうぶ。おのひもよぶうこと今あるごふお見ふかり
まんあまりのこのうほ「さふのあさんのいだふまるさい和
ぶ和後の考へるべ。不明法ごうりまるうあ逢ふ人
ぶごうりほ。猶ふまるふ逢

昔男へ身と流めい流めまるう。今さう お見ふかりまるす
まるふ身のそどぶそぶうく消てるくうるうさふどぶうまる
ぶのそ大切のおとうさんと捨。色るるぬるふ身と潜ー色昔
労うけてあるさふ。色勝者とうけさうの身のまぶるぶ人
るるほまるせう。ぶどぶのこの世の男人出ふい今まぶのおうるぶひ
とおたほうのるまるんぶるぶうほ「ト
るるとうりぶさまふふるるる

う。不便のものやとこゝろぶかおりごと男のるするこゝろ。そのまゝ
もまろのへんと返すもせぬ不空腹かわ さーのごとく
りあるこゝろ不どまでもすのふおうこゝろひがこゝろをもつ
ぬう。工。工金ゐ弟さんへごろぞ出ば悪あそばーてお勿を陸
くこゝろ。りあうこゝひがこゝろ。りのやうふ堪忍するとやこゝのお詞お使せるすうこゝろ
さりは よよト おるおうこゝもすのあれの金ゐ弟
ひおうこゝすり金ゐ弟の例へ不絵うる揚源をもるこゝろ

ゐとと接どうこゝるより金ゐ弟のこゝろおあるこゝ。コレ
こゝるあがれ分人おどこのゐ物三味ゐトこゝ消をろ
るこゝのおこゝを女ゐどこゝゐ不人おどしのこゝい及物が持ゐこゝを
うう。そりやあんまりでござりまこゝるこゝ不 あるこゝ男でもお情
るこゝのお銅紙でござりまをゐ是不どもをうけ出てお俺こゝを
ーまこゝゐこゝこゝ。こゝのおへんドもるく考こゝく御ゐ分から
ぬとこゝそんるゐもアイこゝーがゐこゝおいあゐるうこゝ出こゝ女
つまゐるこゝのござりまをぬこゝ。こゝ女ゐのこゝめいせんとも

一昨年のころのかはらぬ。戯作のあの者のこの者の名ト。世をぬけ出
さるべうけて女房ふたりの。二年や三年遠ざかるくもかるる心の
ものの。乳を出さずの後りとまたのと人だのりと薄
ぐ。世をつづく年あまりのあのごふた振お知りの生
きのあんまりきるぬあるこのおどりどうのまりふおきひ
るさとびるふと楽しこふ今日ぶ日ふ金とるぐ人
まをうりとこーがるた後ぬ世あ一遍のは用のとかさ
処ふおいやの私とたまを見のるるひますまいこのうんな

約束でらこーるまどぎりまをぬトあんとうんをはしまるこぬこるひ金
まつこるた後悔をるる。そ見ずどふふく出るるる生
るぐ。へた後の世まで人の知りこるひふるるぬ出ふ。おどり
名とまをたあげまるる生の者ふ。ありまへて
名若あひ古ふ殊しこうぶ親父ふ孝行せうこの名の
ぬ。猫ふそるこの兄のうへの。世家へ貴見た来こ西名。我
のるぬを人の。猿るりや今ぬ死ぬるとうを金親
貴まのあとものぶ見ぬ中ぬ雑義をまるの死い一見あぬ

易く生れつゝとのことうへぐるぬうコレふさん「ア〻そんなるゝ
あのことあうゝこびひざそなとほしさまのうそりやうんとうたど
ざ
ゝりまもうん「ウンショるよ虚とつくものう「ア〻うまうまうごさの
つとまうす。そなとぐちうとう紙ゝ落ゝ村まうさ一こびひおいとけうぎ
とちううゝぐとたん　金ゝふくゝ男のゝちうゝん
るけうとゝ又酒者とのひつけて順ゝ技剃間とよびおやうとゝゝどうゝく
ゝゝゝどゝゝくゝと来る「イ且ゝ月八ゝゝゝ浅ゝ一別ゝ来ゝゝと見
ざん
糸ゝつゝまうりませね「ゝゝ金ゝゝゝ月八ゝゝゝゝ逢ゝまんまうぐ門
月八
けの「ホイさうぐまりほうけうゝ「大ゝゝくゝり月八ゝゝゝゝゝゝゝア

先刻已来とのひとつの人「ヲヤ上様お成んなすつたとぞんじ
ますとこの穴へお逃入なさいました。ヲホヽヽヲヤふこさん
ヲレ
是いかがなさるつもりでおるとびとるまちらくとけどもとてもとの
ぎを小三ア「イヤ〳〵今来ましたまつ
ようり汗かるりまつさよト
ふるのゝこんいまぎは入門ぐこぜ人ませんね。モシ上様やうぐ上ぐまと
つと勅使ぬ立ませうとトこの金まつの「ナヲ二度下の足と労を
まるものさちつとうみとびあるゝゝちのゝんの処へ勅使の

とそば出門をもちる人のよ「ヲヤ〳〵上様いかのゝんかさい
約束とるすつちやアありませんこを見ふマアそんなことを今
十二サ今ふ宮ふぐうりせ人さりやア。其名称も修ふるのに
まアゝそんなことに備置とんに諸ふ酒ぐ順へ〳〵トけのやのちつ
「さうして茅葉とちゝぐのお臣つとあのその中ふ外のさく
ちをの捨小船トうこのちをゝ。ちぐふ他ふの数ふかい
上びとちをとこせりのちをり順上ぐこう
小三いうゝ〳〵せば月八の小三の月八「コレ女房
人ちのよふ

ふさのぢそうちと濃〳〵ちやあいのんイヨ武田屋ア「アレモウいやさ
おふざけぢやの　見八「コレナるぼそんなふひんちやんなるのご人間界
ちてまづそこのうさうか〳〵ハテさてわんるるてがあるだおまえとうと
しのちの中いちゝねえあの子エりしは　金「大きふせのたたるの
と　ちと　るいぶが強べぞそうぢやの。別深のねえおとてもちつとそ
つとのがうと彼とうのえまとと　「さあうさるえ今日いだ今おを
ぞさうぢやまとふふさのだおやるさるぞうやア物ろ釈ぞおりは
せうイ　けどうさうのにうゝあ　金ろゝうりうぞとまぞ　「さうヨ大きを色男ぞ物ぢやるのとう

ちえ傳ぞぢやまをぢやうくふさぢぞうどんぢおまぞやうみのうぞう
ろんい女ちやア縁ちをのゝ。兄弟分ふるるたりぞちのせえりん
ぢやア面倒ぞゝ芽〳〵　見へうのぢやんなと　ちをものえ酒ぢやうぞちのえ
「モシあのそをまでいあんまりるまますぞえ　金「るのぜ酒がすぢち
やアうりのう　「うるのとやんぢやぞうまぢんんあんまりあるる
とお男の毒うちうぞまけてあげまをう。見すやうぢう勧の一ツ
ゝるさんうゝのておうんなさんるよト　ぞうゝのゝりゝ義　「イヨ濃〳〵あ
がうゝ五藤おの再来め。ちまうぞりんのようゝあ〳〵　見八「モ直物

つきしゞ月のこりいせ人。小三さんいどゝゆあつ〳〵んゝ紙あるさる
ぢあどぜ人ませんゝト今ゝ〳〵ゝつぎとそゝとがけ 「十二小三ゞ力ども〳〵
ト。ゝ〳〵ひ。ゝ〳〵小三の顔をさゝのぞけゞ小三いうとゝさ。ゝさ。ゝ
今 「ゝん子のゝ呉下の月のせ人でゆわゝおさゝゆさゝうゝゝゝ
ヨ。ゝゝ。他人のそゝ〳〵仰ゝあゝ〳〵ごのゝ小三ゝトゝゝゝゝ 「どゝでごゝゝまゝ
ゝうゝとゝしゝるんぞゝ 今 「アゝゝんゝゝゝひゝゝ醉ゝまゝゝゝゝケエイ〳〵コウ
ゝゝゝ小三ゝゝを一ぞのゝゝとゝまゝゝんゝトゝそのゝとゝをゝゝうゝゝゝゝゝ 「丑刻
ゝ。モウ〳〵ゝゝゝゝゝ

おくん今さいのみ「アイヤ〜合点でござりまする」ヨト三人の引ちぐんで
女かのまんと枝を持まり「モシ枝と申さもやまをうろ人」
小三の擬ぶそうとつく。小三いろと呑とんで「十二ツさーご今お起
ヤ七上るゝ〜ゝそこ人絵そのつてあるを」「ハテ〜かまうほさ」
考又曰く 今ゝ弟い月と四てあうろうこまうか枝をゑもう又わうこうび 今〜
七夜月の由良とのゝ紅葉ゞサアもうとうちくよんゝ今ト 小さんのゝ
小三「まゝ雑うまありまする上」 今「るんのとうゝみ。そんゝ枝著ゝのの
かあるまあり。但しいのうゝ上ゝ」 小三「あるゝのおうろうゞさけ

まして悪しのとうゝ上ゝのとゝゝ。むがうりゞ出来ほしさ
今「そうやアアア何がゝのうう雑ゝ弟雑ゞろ」「人のゝようまゝ
このとき皮けゞ千年座の美名鶴さんと。深い中とおつゝ名ゝ
ゝ美名鶴さんい情と夢ゝ新めのゝ〜ひふ引ゝ入てうとさて又
音楽だろうのゝうゝの歌枝の男のゝ人面名ゝとゝのゝうゝ枝
まゝてゝも。弾枝い抱への女弟元ゝ。情上ぬゞ廓のゝ〜ゝ。
ゝ名ゝのゝまゝ中お月ふかゝてゝ今日ゝ来いゝのゝゝ
月とゝ人ゝもうゝ。ゝうゝねゞゝ〜ゝねゞゝ

雀さんとの訳もあるまいがやうなりそうなことがあるとかやうなる婦人
の情の見どころ女の法なるふるい風ぐらいなること
ばどのようなことであるこのお名さまを世界もあるまいせう
ぐらいかがなるこのごろまいす
ぐらいこと今ごろこそまいりさんたごう 助労 今
なんのこうさうやうあるいいそんな苦労と今ごろこそ天井
で鼠が笑ふよりこの扇のようなことのつてもそひこんごろ男の意
気地なし扇の接をやぶつてこの者ばかり。
ぐ真の花雀とおまいゆもふの別深でまらんと二子ばかり

後ぶ立ての。牽強附会もふいしのとこ。こびひふ新ふなさあるう。
恨て通よとおりつてあるまいこれもあァ深い根ふがあるのヨと云
新い外でもねへぶおめへが家出をあることをあるせの状ふがつろ
ゑてこの世ふ望ことも絶ろうのぐらへ元ねやうとのおりいるんぐ。
又ようく考へてうんなると。実ふ外ふのひ
ふいろ男がおつて逃さのふ。ゑとあることもつろうねのふ己だろう
中ゑるもあんまり愚癡の穿鑿で未代人のあつこひ
方の新又とちでめ代化の事ゑ又やは若母ふ若労とりろの大ふ存

とびでたるとゑ恵しんもおかめのこゝろ
うつくしく一ゆくとくさきちゝ友達ふさそらまんらやゝ
けんぶつ見物ふ来さ日ゞ丁度真名雀の突出しの日でとりぐみ美くし
いと評判さるゆゑゆゑやゝゆゑ仙さんとあるうとつくまで迷ひうさること
おそのまゝハテ仙さ者ゆあるゆゑと客ふうつのようそうぐゝ性がやう
ぞり船とりかうゝ心ゆゝくるつにく。紀念の晩ゝうゝちゝとけて
さぐひふ分の上あゝさ知仙さのゆゑ強お雀さうつに堂ふやゝ
まさ六兵衛さの。悪願狼と性てびつゝう。妹のおゝあり船ゝさ性

せぐお雀ゆ若ふ鷲さ。泣つかさちつあいまゝあゝに一つふ深
るゝ備おのゝ。妹のそるゝふゝ中さ帯級さゆゑさぐの乳性。
おまとゝゆ又おめくのまゝるぐ。船まゝゆゝゝゝ性の。芸名雀と抱
てゆ寝ゝまゝに。とのゝてうん捨るゆ船ゆ兵ゝね。妹のゝうふ
客ふるゝのゝ。まるぐゝ力にゆゝらゝふと。約束とゝ通ふゆ多深い
指ふのあるゝと。雑一人船る者ゆるゝ。今日ゆ兵ゝ理ゝゆて
びふ来さのョゝとゝうゞ今度頭番ゝ。加ゝの養者の小三とのゝ
ゆきま。法号の通ゝゝとおゞるゝとのゝが。船中での陸一ゝとゝうぐふ評判

まると守田屋の二階で真名雇と共ふ人生びそるこふ遠、
ねびどうい人とでこの廚へ遠路と隔て来てあるうと不審ふ思く
い新間どまう男のこあふ者を寡さの男と近さおるんの彼のと
い我性てこの拘ぐこうさてだりふ抜ぐこうた。むのこさ行さ
女のゆうもものてうるゆいまくしと申さこうめんう人をゆ乳実
のとゆ名やつぞり迷ふ乳の悪癖こうるんでゆ実者と乳！
こう人さゆうくゆ者うとおりのた。こんをふ者を乳抜つこうた
えんかくてこうまてうんをびそるこふ遠ひいねぐ教ゆ者

ようめのゆいびふ近るこく 狂抜ぐこうた今のゆうふりこゆ浜
理ぢやアあるゆ人ぐのかこうむぐこうるこくこふ真名づるを差へ修で
兄者の名のりとさせてやるぜト奈ふ三ふ「エてそんるここアノ真名づる
さんいここての姉さんでどこうまこうこうアノ姉さんで今へさこうヨ正美
正路のおゆの姉よ「エてそこうやアこうを言ゆますさこう
と微差ゆぞんドませんで浦い女のところこうのこく悪癖ふ根
エこふりつここのことゆ乳こうこいとゆ。又抜しのゆやみくるを正ごるん
の周果でこの中こうふ兄者ふこうぐこうこひゆここうけて仕ここ

つとめの流儀の身さうるのうでを名のり申ひつるなる一の
うい心とも。両親が草葉のうげうをおもうこそこと
まさてまのおなどつとめのその中ぐゆ御ざさまーとらひ
まみ御
真名鶴さんの枕のうの善男女おもたちをもの心をまを
引うをうとしいらぐ〜るのんぐ〜。匹さんの深いおうさんを初
ふ殊一を此つとめ我身でうぢ身の愛おもをもつたをそう
をぐうの面目もの身でぐうまずるれど実もうと
もぐ。ハテ仏のもうん約束ぐかさるものうあうぐねんとな

そんなことを苦ふをもう人ぐ久ーぐりぐ〜。涙くしたちのとあうこう
をそんをあらつぐものうけうやうぐぐ。真名雀とおめんとよく解
おうぐ御〜ぐてうんをうう人いちぐん。おめんのうつぐうつく〜からう〜へ
ヲホ〜そんなことをあのををうけ且ど。梅さんとおもをさんかどを
ををとををんヨト御うを発金「ちのつアおうこい梅さんとあをとぐぐの
をうこと小三「ヲホ〜ぐうのをうりいををををしかぐ金
をんのをうを麻さうをのをうを小三ハイ金「ハテおめ金結ひぐ
今をぐうのの通り。ちのさの陽〜〜をとのを言つをよんまう

かうよいのぐあいなものをあるんぐぢのめぐりあはせ
まことに真名鶴みつんくるまのうぐあるものの「こまこまとものを
いしんの思葉の外ものとのかの秋の空とあるおいろびりんぐぢいは
ものりませんぐアノ芸居でものいさーいますおまへ長ものとうの
ものりの思葉の外の不義いろぐ長ものつい年ものくおさね
とのくおくさんのある分でものうの娘のあまんぐ男おりの
さまさいろぐ者今「コウーみのとのいろるあアるんのの娘ぐ。
よ又実説のことのものるのんのあまぐあるさのるんるんと

ものあるの。未おすぐいまぐ赤くのるとおめまつぐるあまぐ
泥ものんぐ。のるるの手のまくまくのモウの加減不安
のちをやいてくーぶりぐるの。のつとこちちくんよんねヨト
おびをいく「コるるいモウあんまり嬉ーるるく夢ぢゃアるのいると思
ひますヨ今ン爰のるる大くこまあまぐいくとおりのぐ
らり「又そんるのいとを爰のるぐぐぐいのまぐのまさあ
ぐみのとぐよのぐぐります今「うそ。そんモンン爰のる
ぐのまるるぐ「ぐのまいくーまんぐお側のあく今「

千代
きぶいうち
きゝ
柿の
初ちぎり

東竹男三

うゝ小三「ヨホイ〳〵のあれごぞいますヨ」金「ぞんぞん
ぞまよせんと」金「十二ぞうねことぞあるものぞまつおそ
つうてはあるぞ。どれちよつとあつこあてこんようト」巻
んもうちとけて。ちだりそめるあうさびゝゝ玉のあせたや
ぞうさんかくに見より金ふ弟のふ年取へ人とさゝらせ
芸名窪とまるゝ上毋元小三ふ射面させゝゝば。芸名づるも
ぞうふ稽さまもまてそでゆて兄弟のまあで遊ふさ係
よろこびふ様ゝさまるる悲ゝさふ弟まゝふるゝねつこあ

と新。あぢれるさ世とうちかと。泣つつまひつ夜と花ふ
かさこふ憂をうろうけ。かくさぞ小三と金ふ弟が添うゝね
中あるゝ芸名づるい小三のふさのいるぞいるけ。千世ふ八
ふ世ゆさえうけて不便と思ひ嫌ゝたお情うけてんぞさとろ
ゝとい。と念頃ふこのうける。備ゆ金ふ弟い小三と契ふを
ゝーようゝこびふ洩のる意中ふ。一日遊ねば邪ふかゝ二日ゆ
顔とうゝぬ時いゆゆさちびゝ苦ふるるゆぞ一ゝと世あるう
通ひろり。ろゝーゆ師走の末ばふて雪い末ぞ名の花とろ

きもさいとさぬ若い同士。雪さんの私と婚へうけ。連とたぐーに
金さ帝ハかろう多ひ機嫌ふにひとう家田系屋へ入り来
ぶ。そそとうとうくるとう若い者「ここの見れぐらいぶお遊よさのの
大雪ふとの出さぐんで金「雪のる夜中面の夜中かとこ
の大門とろ。ぺ〜〜めつぺう来らってげん気ヨ十云ののの
そあり阪廻ぐらうの十右「ヨット合点承知し。モシ今夜ち
いちのうおあつさまんなせのキーサアお二階へ下いとちり
奥の小座敷へうち通ぶ。ヨヤ金さんなく

いの〜ぞのキーさ。お松ら〜のものぶ。ぶ。ぶ。

ちすよ　金「ハヽコウお菊さん。おめえの献上ものとうとう引ぬいて来た
ことのあるこつけ。ト　のうんざりのうと動く　「あとうるさいぶうのお
毎度ごめんなお乳のどくさるぞ　金「うんのまぶるつてうんの施主
おめえのさたなる。紀の国やのごく〳〵「ちとまありがてごぞり
ちんぶ孔雀ざる添え肌のてごぞりちんぶ。ちんぶ孔雀ざる添え肌のてごぞりちんぶ
風とのひ甲とのひのそ好さ恵でごぞりごぞりちょ　金「コヲ
さたぶふこい組合い縁のごごぞ年義へ歩てるえ　「イヨ
るんでごぞいちまちヨ方こゝゝゝゝかり医ごぞるんぶ

いとやゝでこんなおざったとこうとうて引ぬんであるさのちちよ
金「さうゝごぞるこの又とこの癪ごうこう十二癪でいありちん
ちへぶ大ゝこ地雪ふおこんなすつこのでありちせう。小こさんの乳
色のつろいいおちえさんのお菜ぶいちちよくこちちすゝこちく
ろゝせて糸りちせう　金「何のかんのこと様ゝごせるのつおる
とつれどさるのごゝトちちち

毛寐ぐるぶーと黄揚のふ梯ふうえあげつ。おりえ新ふ
ゆあうとうとうひとうくむあのさまうい佐ふ所謂いのち
取男ろうーとのふ麓けと金ふ鼻いあんうふあうろ寐ろ
びてゐる側へぷ三いよりそひさうのむくとさのど金「ぐふーと
ひぐーふさぐのふ雪の毛さうふあうろう。かぜでゆ引ぷ右
ねうのふ三「用ゆちうとふ引ゆちうぐ。そとだうとふあうりま
せん金「ふウそれだやアいうのあ病の廉うふと「拝病や酒
の三日酔ゐ。ふさのぐあてゆあうさのお顔うとぐ上ぐあうふ

のゆそんゐとぐのぐぎりません金「ハテあうゆとのゆんぐあ。
そんやアぐのいふとぐ小三「ゆんぐろいつて苦ふのつて人ふゆ云
まねいの苦労金「十二人ふいのまね苦労が出来さハテナ。アこれ
ぢやアたくさゆぐこの宿ぐ弟うけとさるとのふとろ小三「ゆんのアア
そんゐとぐアノゆんでぐのます金「ゆんぐとの小三「アノ是でぐの
ますとトうとうふそれとうくも金「そんゐうとまうとのアノ夜食の
かさまりぐ出来とのふのう小三「ハイそまぐうとモウ。ゆとふとら
うぐとうりません金「ゆんのとうとうとうとふぐのでかうのふゆとぐ

ものの出来るのも学人悟のうえぶふも苦ふまるとうの金ふ
しんこうつのいのうつ〳〵さ　小三モウ三月ばかりまちヨ　金へ
そりやアたいさうたやうつさの。ありゝ　分おりふるうつさのいのうさ
つとめも。るめ〳〵。追つけ去ふるつさ〳〵ざのるりとまたを
ふ類合てづがりてつとあとひふ。必ばんどるまいとを
祝人ヨやアく　何のさもかくも。実人ともぶ用出さのとごさろ
祝ひふとまつ〳〵うさり。こんるとうんを酒と毒う　小三ハとの云
ものあまつ〳〵ハ。一チ　だのあるさふ苦らうを。ケませうゝ

それが今〳〵金〳〵ならうふるうとの金だうのくらうつまうね
ことを案ドうて牧つてうまとちやアのうゝゼサアー酒さト
こまとうらうのの幇間藝者大ぜのあげた大さうだ酒造
ふさたやうーけん

假名文章娘節用巻之下終